

## 町長との行政懇談会 質疑応答

日 時：平成 23 年 12 月 9 日（金） 午後 7 時～午後 8 時 50 分

場 所：地域交流センター

対 象：氷上・上高岡地区

参加人員：29 人

Q：氷上・上高岡地区の下水道の計画は。

A：氷上・上高岡地区は三木中央地区に該当し、現在埋管している工区は処理場が供用できるようになれば早期に接続したい。着工していないところほどの処理方法がいいか住民の皆さんの意見を伺って検討したい。

Q：農地転用時に土地改良区の決済金が 1 平方メートル 36 円払わなければならない。香川用水ができて 40 年も経っているし、やめられないか。農地転用決済金の見直しを検討してみてもどうか。

A：決済金の決定は土地改良区の権限によるものであるから、土地改良区に伝える。

後日、農地転用等に必要な土地改良区の意見書を提出するために納付する必要がある旨、また、土地改良法の規定で将来の維持管理経費を含んで決裁金を納付することとなっている旨、回答。

Q：土地改良区の人事について伺いたい。町長が理事長になるものでないか。

A：土地改良区は農家で構成される団体であるから、町とは別の組織であり非農家の私には参加資格がない。

Q：百眼百考会議に参加したが、各部会の提案を町ホームページに掲載しているが年配の人はホームページなど見ない。広報紙に掲載してみてもどうか。部会の提案はぜひ実現してほしい。

A：百眼百考会議は住民の皆さんの声を聞けるシステムと考えている。提案には、「すぐにできるもの」「検討すべきもの」「何年かにわたり計画するもの」とあるが、今後の政策に取り込めるよう努めたい。住民に対する広報は、今後検討したい。

Q：津柳地区の最終処分場の今後の計画はどうか。

A：懸案事項であった最終処分場の高濃度の塩水は、坂出市で処理していたものを東部溶融炉で処理することにより、処理費用を約 10 分の 1 の約 200 万円程度に納めることができるようになった。現在は、タンクで輸送しているが、来年には町有のタンクローリーで輸送を開始する予定である。

Q：マルナカから氷上小学校までの南北の県道は、非常に交通量が多い上に歩道が狭い区間である。通学路でもあることから、歩道を整備してほしい。

A：その道は町道である。何とか考えてみたい。

Q：農協の南で歩道が切れている。町に聞きに言ったら、計画はないとにべもなく言われた。もう少し答え方があるだろう、職員の教育をするべきだ。

A：計画がないことから単純にありのままを答えたのだろうが、不愉快な思いをさせたことに対してお詫びする。職員の教育は大切なことだと考えている。今後は改善するように指導する。歩道の拡幅には用地買収が必要であり、家も建っていることから、多額の経費が必要である。

後日、東側に歩道はある上、地権者の同意も必要なため、慎重に検討する必要がある旨、回答。

Q：町内で採れた野菜など三木町の農畜産品の販売や地場の野菜を使ったレストランを併設した道の駅をバイパスに建設してみてはどうか。

A：道の駅をつくることはできるが維持管理を含めて考えていかなければならない。売れ残った商品のことも含んで経営を考えなければならぬ。補助制度も無くなっていることから慎重に考える必要がある。

Q：氷上幼稚園の駐車場が無い。サンサン館の第2駐車場を利用しているが幼稚園から遠い。登園や降園時には地域交流センターや農協の駐車場の利用をお願いできないか。

A：農協がいいのではないかと。農協と話をしてみる。その際、道路横断に気を付けるため、保護者などが交通ボランティアを考えてみてはどうかと思う。

Q：あいあい歯科のあたりに街灯がなく、用心が悪い。街灯をつけて欲しい。

A：現地を調査する。ただ、防犯灯は稲の害虫などが寄ってきたり、稲の生育に影響があることから周辺の同意が必要である。

後日、該当箇所は県道なので、四国電力のルネサンス事業（総務課所管）を活用していただくよう、回答。

Q：行政懇談会にもっと若い人たちも来てほしい。広報紙の記事のひとつでなく1枚物のチラシでの宣伝を工夫してみてはどうか。

A：若い世代に行政や政治に関心を持ってもらうことは必要であると考え。子育て世代に訴えるような施策が大切であると考え。今回は、広報紙への掲載と併せて1枚物のチラシでの広報を行っている。

Q：子どもには大人が良いものを与えると効果が大きい。教育委員会には熱心に取り組んでいる職員もいるので、後押しをして欲しい。子どもが自然に触れられるような行事をして欲しい。

A：自然に触れられる機会として、子どもが安全に遊べる公園を考えなければならぬと思っている。

Q：今後、公共施設の建設予定はあるのか。

A：将来的に老朽化が著しい福祉センターの建設を考えている。ただし、積立などをしながら準備していきたい。

Q：トイレが各階にあり部屋数もあるサンサン館を避難場所にしてほしい。

A：災害発生時には、町内の死者数ゼロ、対策本部の早期立ち上げを訓練していきたい。町民の皆さまには、一番に避難することを考えていただきたい。

Q：子育てで一番大切なのは、保育所へ行く前の段階である。その段階のお母さんの声を聞いて欲しい。

A：それは初めて聞く考え方である。考えたい。

Q：下水道の処理方式について詳しく説明してほしい。

A：従来は、OD方式といい、微生物による分解であり、大きな構造物の建設が必要であった。新しいやり方は、膜ろ過処理方式に変更することとした。このため、従来の1／3の敷地面積で済む。コストや臭いや構造物の面で有効な方法と考える。

Q：台風時非難命令が出たときに、「食料を持参せよ」とのアナウンスがあった。「何で持っていかないかんのや」という声を聞いた。避難するとき何を持っていかなければならないか、知らない人が多い。啓発が大切だ。大事なことが伝わっていないようだ。

A：いざという時の準備ができるよう住民の意識の改革が必要であると思う。

Q：自主防災組織は多く結成されているが、一部を除いて形のみのように思える。日頃の訓練や消防団の協力が必要であると考えます。

A：災害に対する備えは、自主防災組織づくりを考えていきたい。

Q：公民館など公共施設にAEDを設置してほしい。

A：AEDも大切であるが、となり近所の協力が必要である。(AEDは公共施設に概ね設置済み)

Q：天枝地区の吉田川の左岸が災害で傷んだので修復してほしい。

A：吉田川の左岸側は砂質土であり傷みやすい。また、上流の川幅が下流に比べて広いため危険な川である。下流の高松市部分を改修してからでないとならぬと三木町部分は直せない。県河川のため県に要望していきたい。